

塙先生顕彰祭へのご参加お待ちしております

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では毎年、先生の命日である9月12日に顕彰祭を行っています。ことしも下記のとおり開催いたします。

郷土の偉人である塙保己一先生の遺影に菊の花をたむけ、遺徳を偲ぶ催しにぜひご参加ください。会員以外の方もご参加いただけます。

ご来場お待ちしております。

日時 9月12日(金)
午後1時30分 受付
午後2時 開式

会場 本庄市児玉文化会館 ホール

内容 主催者・来賓による献花
来場者全員による献花
講演



講演について

講演者 長谷川 典明 氏
(郷土史家・顕彰会事業委員)

演題 ①世のため後のため
②地元での顕彰の歩み

来年6月上旬オープン予定

本庄市塙保己一記念館が生まれ変わります。



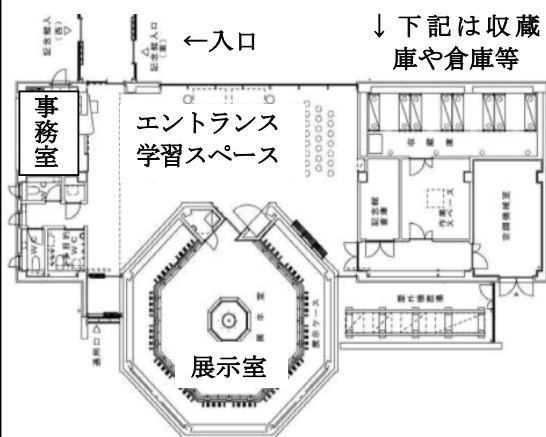
本庄市では、現在、児玉総合支所跡地に新しい複合施設の建設を行っています。この複合施設内に塙保己一記念館が移転、新築となり平成27年6月上旬に開館する予定です。

(同敷地内の児玉総合支所・児玉公民館・児童館は同年5月上旬開館予定。)

現在の記念館は、開設から46年を経過しており、老朽化対策及び耐震化、そして塙先生ゆかりの貴重な文献・資料をより良好な状態で保存するために建替えられます。新しい施設は独立した建物として375㎡の広さを持ち、特徴的な8角形の外観を持つ展示室をはじめ学習スペースなどが設けられる予定ですのでご期待ください。

また、建替え前の現在の記念館も、閉館までは、もう一年を切りました。ぜひあらためてお訪ねください。

(現在の記念館は、
開館 9:00~16:30
月曜定休、入場無料
TEL0495-72-6032)



新塙記念館設計図(上から見た配置)



「正覚房」と「福泉院」

しょうがくぼう

ふくせんいん

文：顕彰会事業委員 長谷川典明

正覚房という名は、中山信名の「温故堂瑞先生伝」の中に、「延享三年丙寅 大人(先生)を生めり幼名を寅之助といふ。五歳の年より肝を病て。七歳の春俄に盲目となる。或人大人の父母に告て曰く。寅之助が歳星其身にかなはず。むべ歳星の次を転しなば能かるべしと。これによりて生年二歳を減じ。戊辰の生に准へ辰之助と改む。又同郡池田村なる験者正覚房が子に擬へて。一名を多聞房と名づけらる。(…大意…生まれ年回りが良くないと言われ、二年後に生まれたことにして改名し、また、池田村の修験 正覚房の子ということにして多聞房と名付けた)と池田村の修験者として出てきます。この「正覚房」に今回は注目したいと思います。

一 保己一はなぜ池田村へ

まず、池田村は現在の神川町大字池田のことで、保木野村の西方に位置しています。「新編武蔵風土記稿」の池田村の記述には「常学院 本山修験、保木野村福泉院末本尊不動、

開山忠尊慶長十二年草創せり」とあります。正覚房は修験者なので常学院がそれに該当しそうです。しかも、「本山修験、保木野村福泉院末」とあることから、保木野村福泉院との関係は本末関係にあり常学院は日ごろから保木野村とは交流があったと考えられます。同じく、保木野村の項をみると「福泉院 本山修験、京都聖護院末、児玉山栄照寺と号す、本尊不動又役行者毘沙門をも置り、当寺往古は福泉坊と号せしよし」とあります。「児玉賀美両郡の年行事職」でもあり、本末関係にあることから、保己一は福泉院の仲介で池田村正覚房との関係をもったと思われる。

二 「常学院」は「正覚房」か

しかし、「院」「房(坊)」と表記が違いますが、「福泉院」は新編武蔵風土記稿で「当寺往古は福泉坊と号せしよし」とあり、「福泉院」は「福泉坊」とも呼ばれていたようです。男衾郡松山領板井村長命寺所蔵、天文二十三年権大僧都律師の文書に、その記録があります。保木野の「福泉院」が「福泉坊」といえるならば、池田の「常学院」も「常学坊」と呼ばれていたかもしれません。そう考えれば「正覚房」は、「し」と「じ」の違いだけであり「じょうがくぼう

う」、すなわち「常学坊」といえるそうです。どうやら保己一の「多聞房」との名付け親である「正覚房」は、「常学院」であると考えてよさそうです。なお「学」と「覚」については、「八十一、千手観音菩薩立像、武州池田村 常覚院(須藤忠夫「渡瀬・権現山石仏の一覽表」)と刻まれた石仏があることから「常学院」ではなく文字としては「常覚院」が正しいのかもしれませんが。

三 眼病治療は池田から藤岡へ

保己一は福泉院を通して常学(覚)院すなわち正覚房へ出向いていたとすれば、病に罹ったとき、修験者が加持祈祷のほか薬草等による病気の治療行為も行っていたので、常学院の下で眼病の初期治療を受けたと思われる。しかし、はかばかしくなく、その後、藤岡の医師桐淵に診察を受けた、と推測すれば伝えられる伝承とも辻褄が合います。

「藤岡町史」には「宝暦三年(一七五三)のことと言うが、武州保木野から六歳の幼児が眼を病い、その父母がこれを負つて来た。豁開がこれを診断して『可愛そうだがもう眼が刎(は)ねた』と言った。その後幾日か手当のため、通つて来たが父母は豁開の診断を疑つて、はるばる

江戸の医師にかけたが、幼児はついに失明した。これが後の検校塙保己一であった。」と書かれています。

天明三年(一七八三)保己一は稻荷神社(福泉院)へ飾太刀を寄進し、さらに漆塗湯桶一對を奉納した記録もあります(「塙検校遺物集」)。般若心経を誦読していたことなども含め、塙保己一が福泉院を通して正覚房の世話になり修験者名「多聞房」と名付けられたことを生涯大切にしてきたものと考えられます。

江戸時代神仏習合だった福泉院(児玉山栄照寺)は、明治の神仏分離令で稻荷神社となり、現在は「御霊稻荷神社」です。(「明治四十年三月十二日御霊神社を稻荷神社へ合祀」埼玉県市町村誌)



ひっそりとたたずむ御霊稻荷神社(元の福泉院) <本庄市児玉町保木野314>

本庄市塙保己一記念館にある資料紹介

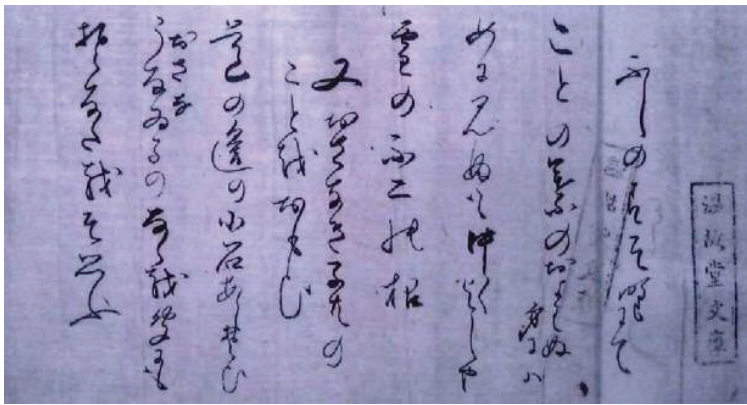
文化七年（一八一〇）塙保己一が上京の途中に詠んだ和歌

文：顕彰会事業委員 吉田敬一

塙保己一は、公的な用務や史料調査・収集の目的で、名古屋・伊勢・京都・大阪方面に前後八回にわたって旅をしています。その都度、旅先から留守宅に宛てて頻りに書簡を送っていました。

塙記念館には、現在も十八通の書簡が保存されています。この中には文化七年十月六日付「とせ宛」の保己一の書簡と同時に発信されたと思われる「歌切」（二首）が保存されています。このうちの一首「ことの葉の・・・」は、保己一の代表作とされ、上京の途中で雪の富士を思い浮かべながら詠んだものと思われまます。なお、「歌切」には、「ふしのすそ野にて」の題がつけられていますが、「松山集」(保己一の歌集)には、雑の部に「うきしまか原にて」の題で収められています。保木野にある保己一の墓碑にも、この和歌が刻まれています。

また、もう一首は、留守宅の家族を思い浮かべながら詠んだもので、子供を思う保己一の優しい気持ちがよく表れています。



(上写真の読み下し)

ふしのすそ野にて

ことの葉のおよほ

身には

めに見ぬも中なか

よしや

雪のふしのね

又、おさなき子供の

ことをおもひ

道の辺の小石あらそひ

おさなきのなくを聞にも

そなたをそ思ふ

(上記和歌について)

文化七年、塙保己一六十五歳の時、京都に向かう途中に詠んだ和歌。

「和歌を詠む力がない私

にとつては、雪の富士山の絶景を表現することができない。だから、目に見えなくても、かえって良かったのだ。」

(*補足「うきしまか原」
浮島が原。—— 東海道の原と吉原の間に葦の生い茂る大湿地帯があり、ここにあり浮島沼という大きな沼の東寄りには富士沼と呼ばれ、ここを背景とした富士山の眺めは東海道随一といわれた。)

26年度も塙先生顕彰会の会員として継続してご協力いただけますようお願い申し上げます。

みなさまからの貴重な会費は、没後195周年に建立予定の塙先生の銅像の作成費用や今回お知らせいたしました9月12日に塙先生に菊の花を捧げ遺徳をしのぶ顕彰祭のため、また、その他の啓発活動に使用させていただきます。

まだ継続手続きをされていない方は会費の納入をお早めにお問い合わせいたします。

みなさまのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

年会費 個人会員 一口 千円、 賛助会員 (団体) 一口 一万円

入会と会費納入の受付場所 本庄市生涯学習課(中央公民館)と本庄市児玉文化会館(セルディ)で受け付けています。本庄市役所4階文化財保護課では、平日にお預かりします。

※ 郵便振替でも申し込みできます (ご希望の際には、下記へご連絡ください)。



発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館 (セルディ) 内

所在地 367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

